

## 空気圧不足がタイヤの発熱、バーストの原因に 異なる空気圧で表面温度とバースト現象を検証しました。

JAF（一般社団法人日本自動車連盟 会長 小栗七生）は、空気圧の違いでバーストの危険性が変わるのか、タイヤ試験機を使って検証しました。

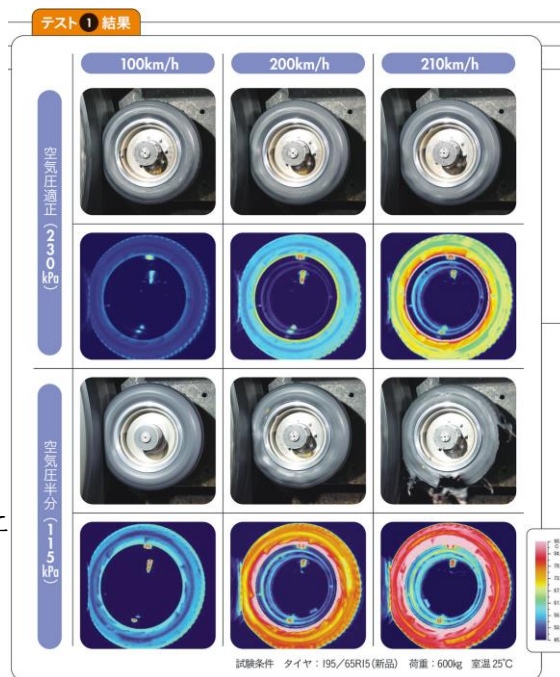
JAFのロードサービス救援依頼で「タイヤのパンク」は上位を占め、高速道路での救援においては、およそ33%を占めるトップとなっています。この中にはタイヤが破裂するバーストも含まれますが、タイヤの空気圧不足が影響するものなのか、テストを行い検証しました。また、バーストが起こった際の車の挙動についても、併せて検証しました。

### ■テスト1

【テスト方法】 タイヤメーカーの試験機を使用し、空気圧が「適正」と「半分」の2つのタイヤ（新品）で速度による変化と、サーモグラフィで表面温度を計測。

【結果】 適正空気圧のタイヤでは、速度210kmまで上げても外見上では問題なかったが、半分のタイヤでは、200kmでタイヤの表面が波打つスタンディングウェーブ現象が発生し、表面温度は100℃を超えました。さらに時速210kmになると、波打ちが激しくなりバーストしました。

【考察】 空気圧が低いタイヤはたわみやすく、スタンディングウェーブ現象が起きやすくなります。熱を持ち、内部が損傷することにより、バーストにつながります。テストでは時速210km時点でしたが、長期間使用したタイヤの場合、法定速度内でもバーストする可能性があります。また、タイヤを縁石などにぶついたり擦ったりした場合もバーストしやすくなるので注意が必要です。

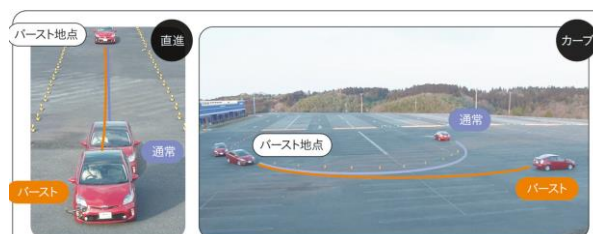


### ■テスト2

【テスト方法】 直進コースとカーブコースにおいて、突起物を右前輪で踏み、バーストを再現。進入速度は直進が時速70km、カーブが時速50km。

【結果】 通常走行した場合と比較すると、直進では、バースト車両は同じ位置でブレーキを踏んだが、停止距離が5mほど伸びました。カーブでは外側に大きくふくらみ、パイロンに沿って曲がれませんでした。

【考察】 バースト発生時は車の挙動が乱れます。慌てて急ハンドルや急ブレーキをせず、ハンドルをしっかり保持して減速するようにしましょう。



◎テスト動画はこちらから (Youtube 公式チャンネル)  
→ <https://youtu.be/JNW1KXDaxyE>

このリリースへの問い合わせは以下までお願いします。  
**一般社団法人 日本自動車連盟 広報部**  
 Tel : 03 (3578) 4920 Fax : 03 (3578) 4912  
 E-Mail:koho@jaf.or.jp URL: http://www.jaf.or.jp/  
 〒105-0012 東京都港区芝大門 1-1-30 日本自動車会館